



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月13日

上場会社名 株式会社ベネフィットジャパン 上場取引所 東
 コード番号 3934 URL http://www.benefitjapan.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐久間 寛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部長 (氏名) 松下 正則 TEL 06 (6223) 9888
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	3,756	29.0	621	47.0	617	46.1	419	48.1
2019年3月期第2四半期	2,911	11.4	422	26.2	422	27.2	283	20.1

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 419百万円 (48.1%) 2019年3月期第2四半期 283百万円 (20.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	71.14	70.52
2019年3月期第2四半期	48.07	47.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	7,040	3,885	55.2	659.14
2019年3月期	5,423	3,513	64.8	596.06

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 3,885百万円 2019年3月期 3,513百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2020年3月期	—	0.00			
2020年3月期（予想）			—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,885	11.2	930	10.4	930	10.3	626	7.0	106.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2 Q	5,895,669株	2019年3月期	5,894,769株
② 期末自己株式数	2020年3月期2 Q	356株	2019年3月期	356株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2 Q	5,894,482株	2019年3月期2 Q	5,890,932株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

当社は、2019年11月14日（木）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、『情報通信サービスを中心にお客様のライフスタイルをもっと楽しく便利に!』を経営方針として掲げ、一般顧客向けサービスを「ONLYSERVICE」と総称して、SIMカード、通信機器・コミュニケーションロボット及びコンテンツの中から最適なプランを企画し、総合的な通信サービスを提供しております。

外部環境においては、独自サービス型SIM(注)市場は、次世代技術である5Gへの移行や、IoT関連のデバイスの提供が本格期を迎えると見られ、更なる拡大が期待されております。また、ロボット産業は、特に、サービスロボット分野の成長が見込まれ、中でも、活用シーンが家庭・店舗・オフィスなど多彩であるコミュニケーションロボットが注目されており、今後の市場拡大が期待されております。

このような状況の中、当社グループでは、ショッピングモールや百貨店での顧客獲得活動やWEB販路の強化等により、当連結会計年度上期の「ONLYMOBILE」会員純増数が同期間において、過去最高となりました。ストック収入においても、会員数を前連結会計年度に大幅に伸ばした結果、前年同期に比べ大きく増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は売上高3,756,741千円(前年同期比29.0%増)、営業利益621,419千円(同47.0%増)、経常利益617,784千円(同46.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益419,348千円(同48.1%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「契約加入取次事業」及び「天然水宅配事業」は量的な重要性が減少したため、「その他」に含めて記載しており、前年同期との比較は変更後の報告セグメントの区分に基づき記載しております。

(MVNO事業)

MVNO事業は、当社グループにおける主力事業であり、ルーターとSIMカードをパッケージ化した「ONLYMOBILE」、コミュニケーションロボットとSIMカードをパッケージ化した「ONLYROBO」の端末販売及び通信サービスの提供を行っております。また、それらの付帯サービスとして、インターネットオプションサービスやコンテンツ等の「ONLYOPTION」の提供を行っております。

「ONLYMOBILE」につきまして、WEB販路代理店との取引拡大、「ONLYMOBILE Speedy nonstop100」などのヘビーユーザー向けのプランや「Only Customize Plan」の販売が好調に推移したことにより、大きく会員数を伸ばすことができました。また、アンカー・ジャパン社が提供する、迫力の画面とサウンドで映画や動画を手軽に楽しむことができ、弊社ルーターと親和性の高いモバイルプロジェクト「Anker Nebula Capsule」とルーターをセットにした新商品の販売を開始しました。

「ONLYROBO」につきまして、旧モデルの販売がほぼ終了し、シャープ社との協働によるタブレットと連動した当社オリジナルモデル版『ONLYROBO ロボホン プレミアム』の販売を本格的に開始しており、順調に会員数が増加しております。催事開催においては、イベントスケジュールから来店予約ができるWEBサイトを活用することで、交通アクセスが良い大都市での催事への効率的な集客ができるようになり、大都市を中心に効果的な開催機会を拡大させてきました。当社は、高島屋との取り組みとして、新宿高島屋の常設コーナー「ロボティクススタジオ」において、「ONLYROBO ロボホン プレミアム」を中心に様々なコミュニケーションロボット・IoT商品の販売を開始しました。これにより、様々な顧客体験が可能な空間の提供や対面でのサポート対応が可能となりました。

人材の確保については、新卒採用の環境が厳しいなか、採用基準の見直しやインターンシップを強化した結果、即戦力となる優秀な人材を多数採用することができ、販売数の増加に繋げることができました。

保有会員へのサービス向上策としては、前連結会計年度より「つながるカスタマーセンター」を目標として掲げ、サービス品質の向上に努めてまいりました。また、カスタマーセンターの人員増強、RPAの導入による顧客管理業務の効率化、サポートサービスの内製化等、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

以上のことから、当第2四半期連結会計期間末におけるONLYSERVICEの会員数は以下の通りとなりました。

	2019年9月末	2018年9月末	前年同月比
ONLYSERVICE総会員数	108,600人	81,300人	33.5%増
ONLYMobile	78,800人	50,600人	55.6%増
ONLYROBO	7,300人	4,400人	66.2%増
ONLYOPTION(※)	56,400人 (22,400人)	52,800人 (26,200人)	6.8%増

(※) ()内の人数については、当社のONLYOPTIONのみを利用されている会員数となります。

(その他)

その他については、主に天然水宅配事業とハウスペンダー事業を行っております。天然水宅配事業につきましては、営業活動を縮小しているため保有顧客数が減少しましたが、一方で顧客維持の管理コストや減価償却費が減少したため、営業利益は増加いたしました。また、ハウスペンダー事業につきましては、大型現場の受注があったことで売上高・営業利益ともに増加いたしました。

その結果、売上高336,205千円(前年同期比1.0%増)、営業利益77,626千円(同5.6%増)となりました。

(注) 独自サービス型SIMとは、独立系MVNOがSIMカードを活用し、独自の料金プランで様々な通信サービスを顧客へ提供する形態であります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は6,336,003千円となり前連結会計年度末と比べ1,175,188千円増加いたしました。これは、主として割賦販売による割賦売掛金の増加749,351千円、受取手形及び売掛金の増加206,209千円、現金及び預金の増加320,561千円等によるものです。固定資産は704,489千円となり前連結会計年度末と比べ441,372千円増加いたしました。これは、主として株式会社モバイル・プランニングを連結子会社化したことに伴うのれんの増加378,609千円によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は2,883,965千円となり前連結会計年度末と比べ1,005,226千円増加いたしました。これは、主として短期借入金の増加833,332千円、未払法人税等の増加84,176千円、支払手形及び買掛金の増加65,971千円等によるものです。固定負債は270,719千円となり前連結会計年度末と比べ238,960千円増加いたしました。これは、主として長期借入金の増加240,000千円によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、配当金の支払いによる減少47,155千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上(419,348千円)により、前連結会計年度末と比べ372,373千円増の3,885,807千円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べて320,561千円増加し、当四半期連結会計期間末には、679,232千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びそれらの主要な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は357,014千円(前年同四半期は399,213千円の支出)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上617,784千円による資金の増加と、売上債権の増加額841,653千円、法人税等の支払額165,646千円等による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は404,248千円(前年同四半期は5,420千円の支出)となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出382,802千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は1,081,825千円(前年同四半期は100,605千円の収入)となりました。これは主に短期借入れによる収入830,000千円、長期借入れによる収入300,000千円、配当金の支払いによる支出47,155千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	359,170	679,732
受取手形及び売掛金	565,350	771,559
割賦売掛金	4,247,865	4,997,216
商品	127,396	76,627
その他	26,992	31,780
貸倒引当金	△165,960	△220,912
流動資産合計	5,160,815	6,336,003
固定資産		
有形固定資産	30,230	38,811
無形固定資産		
のれん	—	378,609
その他	20,193	23,559
無形固定資産合計	20,193	402,169
投資その他の資産		
その他	291,612	343,000
貸倒引当金	△78,919	△79,492
投資その他の資産合計	212,692	263,508
固定資産合計	263,116	704,489
資産合計	5,423,932	7,040,492
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	128,055	194,026
短期借入金	870,000	1,703,332
1年内返済予定の長期借入金	—	60,000
リース債務	1,440	482
未払法人税等	169,485	253,662
賞与引当金	52,521	84,915
役員賞与引当金	13,000	—
販売促進引当金	514	514
その他	643,721	587,033
流動負債合計	1,878,739	2,883,965
固定負債		
長期借入金	—	240,000
リース債務	2,731	2,490
資産除去債務	29,027	28,229
固定負債合計	31,758	270,719
負債合計	1,910,497	3,154,685
純資産の部		
株主資本		
資本金	611,864	611,954
資本剰余金	235,244	235,334
利益剰余金	2,666,695	3,038,889
自己株式	△370	△370
株主資本合計	3,513,434	3,885,807
純資産合計	3,513,434	3,885,807
負債純資産合計	5,423,932	7,040,492

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	2,911,503	3,756,741
売上原価	1,041,231	1,400,858
売上総利益	1,870,272	2,355,882
販売費及び一般管理費	1,447,476	1,734,463
営業利益	422,796	621,419
営業外収益		
受取利息	101	62
貸倒引当金戻入額	613	651
受取事務手数料	238	160
その他	211	628
営業外収益合計	1,164	1,502
営業外費用		
支払利息	1,147	1,799
事務所移転費用	—	3,338
その他	—	0
営業外費用合計	1,147	5,137
経常利益	422,813	617,784
税金等調整前四半期純利益	422,813	617,784
法人税、住民税及び事業税	145,027	225,527
法人税等調整額	△5,364	△27,092
法人税等合計	139,662	198,435
四半期純利益	283,151	419,348
親会社株主に帰属する四半期純利益	283,151	419,348

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	283,151	419,348
四半期包括利益	283,151	419,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	283,151	419,348

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	422,813	617,784
減価償却費	20,335	11,393
株式報酬費用	149	299
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,722	26,423
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,000	△13,000
貸倒引当金の増減額(△は減少)	42,398	47,114
販売促進引当金の増減額(△は減少)	△273	—
短期解約損失引当金の増減額(△は減少)	△1,317	—
受取利息	△101	△62
支払利息	1,147	1,799
事務所移転費用	—	3,338
売上債権の増減額(△は増加)	△767,368	△841,653
たな卸資産の増減額(△は増加)	55,454	50,768
仕入債務の増減額(△は減少)	△73,073	18,296
未払金の増減額(△は減少)	37,853	△99,681
未払消費税等の増減額(△は減少)	29,254	△10,593
その他	△19,377	△1,809
小計	△266,826	△189,580
利息及び配当金の受取額	101	62
利息の支払額	△1,179	△2,003
法人税等の支払額	△131,308	△165,646
法人税等の還付額	—	153
営業活動によるキャッシュ・フロー	△399,213	△357,014
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,562	△2,791
無形固定資産の取得による支出	△2,435	△6,999
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△382,802
資産除去債務の履行による支出	—	△800
貸付金の回収による収入	967	285
差入保証金の差入による支出	△360	△10,110
その他	△1,029	△1,029
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,420	△404,248
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	830,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△39,802	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	2,490	180
リース債務の返済による支出	△15,045	△1,199
配当金の支払額	△47,037	△47,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	100,605	1,081,825
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△304,028	320,561
現金及び現金同等物の期首残高	496,415	358,670
現金及び現金同等物の四半期末残高	192,387	679,232

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間において、株式会社モバイル・プランニングの全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	MVNO 事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	2,578,531	2,578,531	332,972	2,911,503
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,578,531	2,578,531	332,972	2,911,503
セグメント利益	482,932	482,932	73,513	556,445

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているハウスペンダー事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	482,932
「その他」の区分の利益	73,513
全社費用(注)	△133,649
四半期連結損益計算書の営業利益	422,796

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	MVNO 事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	3,420,536	3,420,536	336,205	3,756,741
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	3,420,536	3,420,536	336,205	3,756,741
セグメント利益	770,782	770,782	77,626	848,408

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているハウスペンダー事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	770,782
「その他」の区分の利益	77,626
全社費用(注)	△226,988
四半期連結損益計算書の営業利益	621,419

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「契約加入取次事業」及び「天然水宅配事業」は量的な重要性が減少したため、「その他」に含めて記載しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「MVNO事業」セグメントにおいて、当社は株式会社モバイル・プランニングの株式を取得し連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は378,609千円であります。